

●保育理念

“ひとりひとりに生きる力を！”

1. ひとりひとりを「大きな家族」の一員として認め、役割を認識させ、愛情を持って育てます。
2. ひとりひとりの子どもを見極め、発達段階に応じ、「感性・知性・体力を培う」三位一体のバランス保育・教育を信条として育てます。
3. ひとりひとりが意欲的な生命力を発揮できるよう「自立と自尊と自律」の精神を大切に育てます

●保育の目標

スタッフは園児が喜びをもって自発的に活動できるような言葉がけをし、自らがお手本となるような行動をとる。

スタッフは子どもたちの安全・安心で健康的な生活を確保し、主体性を尊重しながら保育する。

スタッフは家族の一員としてお互いを認め合い、子どもたちの成長のために、全員で一人ひとりの子どもたちを受けとめていく。

●保育の方針

「保育所保育指針」に準じ、保育・養護の視点と発達・教育の視点で、「健康」・「人間関係」・「環境」・「言葉」・「表現」の五領域を縦断的にとらえ、子どもの成長に合せ、子どもの力を最大限に引き出すよう努めます。

1. スタッフの基本行動原則「丁寧・賞賛・感覚・微笑・予習＝余裕」に基づき、保育者チームは、大きな家族の構成員として見守る保育を実践します。
2. “個性豊かで元気な頭の良い子”を願う保護者のニーズに応えられる「幼児プログラム」を実践します。幼児教育プログラム実践の要諦は、子ども自身の「意欲」です。「やりたい、知りたい」という好奇心を大切にします。
3. 自分のことはできる限り自分でできる喜びを得る、そして最後までやり抜く、頑張れる「自立支援」保育を実践します。
4. 縦割り実践教育形態を通じ、小さな子、弱い子を思いやれる、仲間との関係を大切にする、など他者との中で「自律」する力をつける保育を実践します。
5. 自分は愛されている、そして、頑張ればやり通すことができるという「自尊感情」を育み、人間の土台づくりをする保育を実践します。

1. 中期事業計画のテーマ

- 経営の安定化
- 選ばれる保育園づくり

2. 園目標

選ばれる保育園づくり

3. 原因分析

達成または未達成の原因および次年度への課題

質の高い保育の実践に向けて、園の魅力や課題について出し合い共有し同じ方向性で園運営していくことができた。また個々のスタッフのスキルアップに向けて、目標設定と、面談を実施し達成度の確認を行い、成長できる環境づくりとスタッフの自発的な行動の促進を目指した。地域交流は定期的を実施した。次年度は年間で計画を立て実行していく。

4. 開所日及び開所時間

事業	開所時間
平日	7:00~20:00
土曜日	7:00~18:00
休園日	日・祝日・12/29~1/3

5. 定員数

・利用定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
3	7	7	7	8	8	40

6. 年間行事実施日

月	行事等の名称	対象者
5月14日	親子レクリエーション	園児とその保護者

6月11日	個人面談	園児とその保護者
7月22日	夏祭り	園児とその保護者
11月12日	運動会	園児とその保護者
11月～12月	パレット学習タイム参観 保育参観	園児とその保護者
1月14日	個人面談	園児とその保護者
2月18日	発表会	園児とその保護者
3月21日	卒園式	卒園児とその保護者
3月4日	入園説明会	新入園児とその保護者
3月25日	進級説明会 クラス懇談会	進級園児と新入園児とその保護者

7. SDGs に係る取り組み結果

 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>  <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 質の高い保育の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の振り返り ・ 研修制度の充実 <p>質の高い保育の実践に向けては、日々の保育の振り返りを行い、計画に反映させることができた。また、積極的にキャリアアップ研修を受講しスタッフのスキルアップにつなげていくことができた。</p> ● 気になる子支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床心理士による巡回訪問 <p>定期的な巡回訪問と個別支援計画書を作成し、全スタッフが共通理解のもと、日々の保育の関わりに活かすことができた。</p> ● 質の高い給食の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ 安心安全な手作り給食、おやつを提供 ・ 食育活動の充実 <p>年間計画を作成し、計画的に食育活動を実践することができた。</p> ● 能力開発プログラムの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 独自のカリキュラムを活かした計画的な取り組み ・ ICT を活用した動画の配信 <p>計画的に実践することができた。また、取り組みを見える化することでご家庭にも発信することができた。</p>
--	--

 <p>5 ジェンダー平等を 実現しよう</p> <p>8 働きがいも 経済成長も</p>	<p>●充実した休暇制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休暇取得しやすい風土づくり <p>全スタッフが休暇を取りやすく、また平等に取得できるよう対応できた。また年間の休暇を決めておくことで見通しが立てられるようにした。</p>
 <p>4 質の高い教育を みんなに</p> <p>5 ジェンダー平等を 実現しよう</p> <p>8 働きがいも 経済成長も</p>	<p>●働き方向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT化促進による保育士業務の負担軽減 <p>マニュアルの確認を行いICT化の促進を図ることができた。</p> <p>●充実した年間研修計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの年間研修計画の作成 <p>年間計画を作成し個々のスタッフに必要な研修やスタッフが希望する研修を受講する体制を整えることができた。</p> <p>●キャリアパスの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育成計画の作成 ・処遇改善加算 ・専門リーダー研修の受講 <p>育成計画シートや目標設定シートを作成し成長できる環境づくりができた。</p>
 <p>4 質の高い教育を みんなに</p> <p>8 働きがいも 経済成長も</p> <p>11 住み続けられる まちづくりを</p>	<p>●地域交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児相談会の実施 <p>地域交流を定期的で開催し保育体験や育児相談、保護者の交流の場を提供することができた。</p> <p>●虐待防止、貧困対策への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政、第三者委員との情報共有 <p>行政、第三者委員とのつながりを持ち、情報共有が必要な際に連携がスムーズにいくようにすることができた。</p> <p>●地域ボランティアの積極的な受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生職業体験の受け入れ <p>中学生職業体験の受け入れでは事前オリエンテーションや当日振り返りをおこない丁寧に対応できた。</p>

 <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> <p>12 つくる責任 つかう責任</p> <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●食品ロスの低減 <ul style="list-style-type: none"> ・園児数に合わせた使用量の計算 ・園児数に合わせた発注の見直し <p>食品ロスがないように再計算、発注をおこなうことができた。</p> ●設備チェック・整備による使用寿命延長 <ul style="list-style-type: none"> ・定期的なメンテナンス <p>毎月設備チェックを実施し安心安全な環境を整えることができた。</p> ●省エネ・節電 <ul style="list-style-type: none"> ・消費量を抑える呼びかけの実施 <p>日々の生活の中で意識的に行動できるよう定期的に呼びかけをおこなうことができた。</p> ●エコ活動・リサイクルを取り入れた保育 <ul style="list-style-type: none"> ・エコバックの利用 ・ゴミの分別 <p>見てわかるような表示をつけ、日々の生活の中で取り組める工夫ができた。</p>
--	---

8. 保護者との連携の報告

- ・ コドモンによる家庭との日々の連絡をおこなった
- ・ 個人面談で園児ひとりひとりの成長や園での様子を報告した
- ・ 懇談会では、クラスの様子を伝え、クラスごとの結果や育ちを報告した
- ・ 個人面談以外にも必要に応じて個別に面談を行った。
- ・ 園生活の様子を見ていただけるよう、保育参観を実施した。
- ・ 感染症拡大により保護者の参加が難しい行事については、動画配信や写真販売を行い、子どもたちの様子を伝えられるようにした。
- ・ 感染症対策により、人数制限や対面で接する時間が少なくなっているため状況に合わせて都度判断していく。

9. 第三者評価に対する取組（もしくはサービス向上に向けた取組）

- ・ 5年に1回、第三者評価を受審
- ・ 姉妹園施設長による環境整備チェックを実施（そこでの課題や対策も記載）
- ・ 園の自己評価を行い、園の取り組みや課題対策について全スタッフで意見交換をおこなった。
- ・ 環境設備チェックでは、節電の意識を持って可能な限り対応することやペーパータオル

を必要枚数で使用する声かけなど改善点があげられた。省エネを心がける意識を全スタッフが持てるように全体周知していった。

10. セルフモニタリングの実施報告

- ・ 園内での怪我や園児による喧嘩などの報告を都度おこなった
- ・ 職員会議や昼礼で、共有した
- ・ 事故防止・園外保育マニュアルを見直し、研修をおこなった
- ・ 事故の振り返りシートを作成。再発防止策については、複数のスタッフで考えながら再発防止に努めていった。

11. 苦情対応・解決の取組

- ・ 園で独自の苦情解決窓口を設置し、解決への取り組みを図った
- ・ 苦情申し立ての流れを保育園の玄関に掲示した
- ・ 第三者委員の連絡先を掲示した
- ・ 入園説明会、進級説明会時に要望や苦情を伝えられる仕組みを保護者に伝えた。

12. 職員の研修

- ・ 新卒採用については法人本部にて初期研修をおこなった
- ・ 新卒については、配属前に現場研修おこなった
- ・ 年間研修計画に基づき、園内研修を実施した
- ・ 個人ごとの研修計画・記録一覧に基づき、行政等主催の研修に参加した
- ・ 姉妹園での保育士の交換保育・視察研修をおこなった
- ・ 給食、事務スタッフは年2回の全体研修を実施した
- ・ 新卒スタッフの育成担当者を決め、育成計画シートを活用しながら計画的に育成をおこなった。
- ・ キャリアアップ研修を受講し、受講したスタッフは園内研修でフィードバックをおこないスタッフのスキルアップを目指した。

13. 職員の労働条件・労働環境保持のための取組

- ・ 就業規則、賃金規程、36、32、24協定を制定し、労働基準監督署へ届け出た
- ・ 育児休暇、介護休暇について制定
- ・ 退職金規程を制定
- ・ 法人総務部にて、雇用管理の改善等に関する事項にかかる相談窓口を設置
- ・ 特別休暇（防疫特別休暇・ワクチン接種休暇）が付与され、スタッフが安心して勤務ができる体制が整えられた。

14. 児童・職員の健康管理

- ・ 園児の健診については年に2回学校保健安全法に規定する健康診断に準じて実施した
 - ・ 職員の健康診断は4月、5月、6月に順次受診（人間ドック希望者は個々受診）した
 - ・ 中途採用者の場合は、採用前に実施・未実施の確認した
 - ・ 感染症予防・衛生管理マニュアルに基づき、研修および感染症の予防に努めた
 - ・ 園内で発生した場合は、速やかに掲示またはメール配信にて、保護者へ状況説明した
- ・ スタッフの健康管理は、本社から確認メールが配信され日々の体温、体調を管理していった。

15. 安全安心に対する取組

(1) 事故の防止策と対応策

- ・ 全スタッフ配布のハンドブックに「安全に関する規定」等を掲載し、職員に周知した
 - ・ 事故防止・園外保育マニュアルにて研修を実施した
 - ・ 1年に1度マニュアルの見直し・改定をおこなった
- ・ 毎日9：30に出欠席の確認をおこない、登園確認の徹底をしていった。
- ・ 戸外、園庭に行く際は人数確認をおこない、点呼の徹底をしていった。
- ・ 9月に救命救急研修を全スタッフが受講した。

(2) 不審者対策

- ・ 不審者対策を目的とした避難訓練を年に1回以上実施した
 - ・ 不審者対応マニュアルにて研修を実施した
 - ・ 1年に1度マニュアルの見直し・改定をおこなった
- ・ 園内の環境面が変更した際には、いざという時に備え、不審者対応を実施した。

(3) 防火・防災対策

- ・ 毎月避難訓練および消火訓練を実施した
 - ・ 消防用設備の点検については専門業者へ委託し、年に2度実施した
 - ・ 危機管理マニュアルにて研修を実施した
 - ・ 1年に1度マニュアルの見直し・改定をおこなった
- ・ 防火防災管理者再講習を受講した。

16. 虐待防止の取組

- ・ 児童虐待対応マニュアルにて研修を実施した
- ・ 希望職員は外部研修へ参加し、研修内容を職員に共有した

- 外部研修の受講ができなかった。日々の子どもの様子を共有した。
アザなど分かりやすい外傷は早期発見につながるが、ネグレクト等は発見が難しいため、日々の保護者とのコミュニケーションから信頼関係を築き、家庭の様子や相談をしやすい関係性を築いていく。

17. 給食に対する取組

- 給食マニュアルにて研修を実施した
- 物語メニュー、あそびごころのある盛り付けチームにて給食の質を向上に努めた
- 年に2回全体研修をおこない、スキルアップを図った

- 姉妹園に給食視察研修をおこなった。
- ミーティングで各クラスの喫食状況の報告をおこない、共有した。
- 食育活動は給食スタッフと保育スタッフが連携しながら進めた。